

## 1975年 2段レーボーイ カッター

1. 会社名 ヤーゲンベルグ株式会社  
現 株式会社アイ・エイチ・アイ フォイト ペーパーテクノロジー
2. 設備納入場所 三菱製紙株式会社 八戸工場
3. 完成年 1975年
4. 技術標題 シンクロフライシーター 2段レーボーイ付

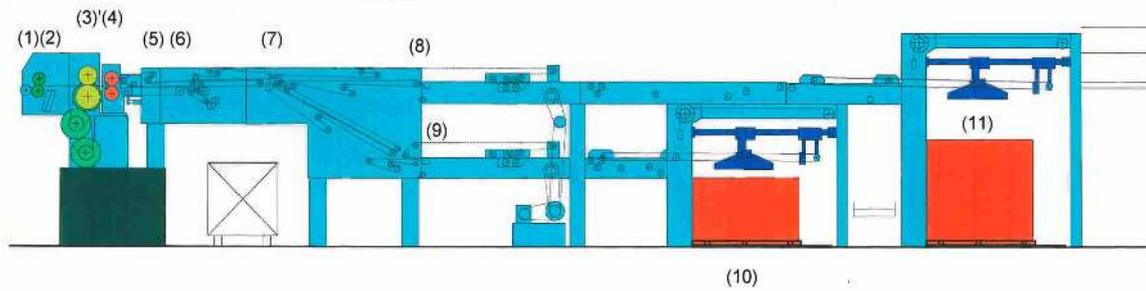
### 5. 技術概要

日本最初の本格的フルシンクロフライカッターである。現在のシンクロフライカッターと異なり機械的シンクロ即ちドラッグギアリングを使用したヤーゲンベルグ社のみが製作出来たものである。導入の背景は上質紙、コート原紙用抄紙機で幅も145インチより200インチ時代に入り、仕上も1抄紙機、1ダブルカッターの時代から仕上室と言う新しい考えが出て来た時代である。145インチ抄紙機の時代は全幅でダブルカッターに掛けて枚葉仕立を行ってきたが、200インチでは全幅でカッターに掛けられず、ワインダーにて小割にしてカッターに送るという考え方に変わってきた。

一方この時代ソーターカッターがある時期流行したが、イニシャルコストに対して生産能力が少なく、全量処理するにはイニシャルコストが高すぎる理由から、特別な紙を除いて一般紙においては別の考え方が出て来た。それはシングルカッターで2～3丁取にして多層切りにする事が最も生産能力がアップすると言う事である。但し選別工程の省力化を考えると出来るだけ重欠点、印刷工程でクレームのつく欠点は全部取り除いて出荷する考え方である。それは半切れ、スプライスを完全に取除くと言うことである。従ってこの様な考えを背景に取幅2100mm、速度200m/min.でレーボーイを2段にし、ゲートは欠点除去用と連続運転用、第1レーボーイ、第2レーボーイとの振り替え用を備えている。カッターのレイアウトとしては、従来のレイアウトと比較して大変複雑な様に見えるが、シートのランナラビリティは優れている。オーバーラップもサクシオンボックスを使用し、シートのタイミングを計る。シートテールをサクシオンして次のシートとのオーバーラップをスムーズに行われる様に配慮したものである。

特記すべき事は従来のコンベンショナルタイプと違いシザーカットであり、紙粉発生が少なく、目つ切口がシャープである事は大なる利点であった。特にフィラーの多い紙、塗工量の多い紙においてはシンクロフライの利点が活かされている。また菱精度もコンベンショナルベッドタイプと比較すると、比較にならない程優れたものである。またパイリングも切口の良さと関連して従来のものと比較すると大変山姿が良いパイルとなった。そして紙粉発生が少ないので印刷工程における紙粉によるトラブルが少なく良い評価を得たのである。欠点としてはやはり従来のコンベンショナルタイプ（ベッドナイフタイプ）と違いイニシャルコストが高いと言う事であった。本設備のアンワインドは国産メーカーより客先が調達された。

## SYNCHRO-STAR 2-Layboy



リードインロール

- 1) スリッター
- 2) ドローロール
- 3) フライナイフステーション
- 4) 高速テープ
- 5) 第1リジェクトゲート (欠点落し)
- 6) 第2ゲート, 連続運転, 振り替用
- 7) 第1オーバーラップセクション
- 8) 第2オーバーラップセクション
- 9) 第2レーボーイ
- 10) 第1レーボーイ